

令和5年度 第1回阪南市地域公共交通会議 会議録

【開催日時】 令和5年8月7日（月） 午後3時00分から開催

【開催場所】 阪南市役所3階 全員協議会室

【出席委員】 委員25名中、24名の出席の下、開催した。

三ツ石 浩幸、魚見 岳史、森貞 孝一、竹中 宏子、南 憲治、田内 文雄、小川 和彦、
讃井 聡、尾原 健一、西谷 興季、中嶋 和政、内田 雅之、中村 洋一、日野 泰雄、伊勢 昇、
奥田 善之、下川 昌、徳田 弥之、岡野 純、堀内 良子、加賀 美津江、奥野 英俊、
古野 悦司、青野 邦男（代理出席）

【欠席委員】 松下 芳伸

【代理出席者】 村内 真貴子

【傍聴者】 4名

【案 件】

- （1）令和4年度阪南市地域公共交通会議決算報告について
- （2）令和5年度阪南市地域公共交通会議予算（案）及び監事の指名について
- （3）阪南市デマンドタクシー実証実験の結果報告について
- （4）その他

【結 果】

- ・ 会議及び会議録の公開について、承認を得た。
- ・ 令和4年度阪南市地域公共交通会議決算報告について、承認を得た。
- ・ 令和5年度阪南市地域公共交通会議予算（案）及び監事の指名について、承認を得た。
- ・ 阪南市デマンドタクシー実証実験の結果報告について、報告を行った。

【質疑応答】

(1) 令和4年度阪南市地域公共交通会議決算報告について

(委 員) 昨年度の決算報告では、内容については会議費のみとなっているが、事業費を本会議予算として計上し実施することはあるのか。

(事務局) 本会議にて実施する事業等を行う際には予算の計上も行っていく必要があると考えている。今後の計画策定などに際しては予算化に向けて調整していきたい。

(委 員) 地域公共交通会議で、予算の裏付けをした上での事業を実施することが望ましいと考える。地域公共交通会議の中で協議をして、特定事業を含む計画を策定する。そしてその事業を実施していくといった体制が重要になる。予算があり、事業を実施することで、見た目に頑張っているということを市民の皆さんにも理解してもらえるような会議運営の方がよいと考える。

(事務局) いただいた意見を踏まえ、予算化に向けて調整を行っていきたい。

(異議なし)

2) 令和5年度阪南市地域公共交通会議予算(案)及び監事の指名について

(会 長) 案件(1)にていただいたご意見を踏まえ対応していくので、原案通り承認するという事でよろしいか。

(異議なし)

(3) 阪南市デマンドタクシー実証実験の結果報告について

(委 員) 3月に実証実験を実施して、この8月に市としての方向性が出るのではないかと期待していたが、調査研究ということでの説明だけではなく、これから先何年後かに導入していきたいなどの話があるといいのではないか。

(事務局) 現時点ではいつ実施するということは決まっていない。今回のアンケート結果でも費用面など、課題があり同じ方法での実施については難しいので、民間活力などを導入し実施に向けた課題を解決していけるよう、調査研究等を行って進めていきたいと考えている。

(会 長) 前回本会議でもあったように、今回の実験については、バスからデマンドタクシーにすべて転換するという話ではない。あくまでも実験を行うことで、課題や問題点を浮き彫りにして、それらを解決する方法を探っていきたいということで実験を実施したところである。

その中で、今回の結果についてわかったことは様々で、1つはニーズがあるということ。しかし、一方で、周知期間が短いこと等もあり、利用率についてはそこまで大きく上がらなかったこと。そして乗合ということで、相乗り率が低かったこと。そして一番大きかったのがコスト面で、やはり現状では課題がある。それらを民間活力ということで民間と協力することにより課題を解決する方策があるのかどうかを検証したうえで、現状のバスなどで行き届かないエリアなどの問題解決を図りたいことから、民間活力を活用しての調査研究としている。

調査研究により早く方向性を出せるのがいいと考えてはいるが、現状の課題を踏まえるともう少し時間をいただきたい。

(委員) 昨年度の実験開始の際の話では、昨年度実施した、バスの重複路線解消の効果検証の中で出てくる課題の解決方法の一つとなる可能性があれば、その際に必要な課題やデータを収集するために今回の実証実験が位置づけられたと理解している。

今後公共交通の課題解決の一つとして、どのような事業をどのような主体で実施していくのかということを明確にして本会議で協議するべきであると考えます。

(委員) 今回の実証実験については限定されたエリアでの実施であったが、本会議で議論すべき内容についてはもっと広い意味での検討を進めるべきではないか。

私自身の意見としては、路線バスやコミュニティバス、デマンドなどやっているが一番大事なのはタクシーであると思っている。緊急時にも頼れるのはタクシーである。

オンデマンドが発展して、タクシー会社が撤退することが懸念される。そのような視点での検討もお願いしたい。

(会長) タクシーとの競合でやっていこうという話ではなく、現状の課題を解決すべく取り組んでいきたい。

(委員) おっしゃる通り、実験のように1回200円で、1台当たり1.3人となると、安いタクシーと同じになる。やはり乗り合いでないと成立しないと考える。これも先ほどの課題の一つでもあるため、どうしたら達成できるのかも含めて調査研究していただければと思う。

また、今回の課題のまとめのところで言わせていただきたいが、個別課題については他の委員もおっしゃるとおりであるが、その中で、今回の結果を踏まえて公共交通としてサービスをしていくためにはどうしていけばいいのか、というところを課題とすべきではないかと考える。今回は報告として理解したが、いろいろなサービスやその提供手法があるなかで、この地域公共交通会議で議論すべきところはどこなのかを整理した上でまとめていただきたい。

(委員) 今回の報告については、各集計の単純集計になっている。今後施策展開に使うための分析を行うのであれば、クロス集計などの手法を使ってデータの有効活用を検討すべきだと思う。また、今回の実験では登録制ということなので、ODデータについても把握されていると思うのでそれらのデータを活用して分析することも有効なので、参考にしていきたい。

(事務局) 参考とさせていただきます。

(4) その他

(委 員) 阪南市公共交通網形成計画の次の計画の策定はいつか。

(事務局) 阪南市公共交通網形成計画の計画期間が昨年度で終了しているため、次期計画の策定期間については協議中となっている。

(委 員) 次期計画の策定の際には、計画の中に事業者間連絡会のようなものの立ち上げについて位置づけをお願いしたい。バス事業者やタクシー事業者等との対話の場を作ることが、ますます重要になっていると思うので、意見としてお願いしたい。